

百年のお客様に感謝

今年迎えたウイスキーづくり100周年を、「これまでサントリーを育てていただいたお客様、飲食店様、お得意先に改めて感謝する場」とするサントリーの森本昌紀スピリッツカンパニー社長。1〜4月の実績は、「ほぼ計画通り」の2ケタ増だが、目線の先には、「飽くなきモノづくりの精神による、あらゆる品質の昇華」がある。

(石母田主幹)

直撃インタビュー

サントリー取締役常務執行役員 森本昌紀スピリッツカンパニー社長



インタビューの冒頭、日毎に人出が増えている外食産業について森本社長は、「率直に言って嬉しい。仲間」

間、友人との楽しみの尊さも実感している。こうしたことを背景に、サントリーのスピリッツ事業は、取扱

問題点を指摘。「サントリーにとって外食は創業以来、支えて育てていただいた大切な市場のひとつ。売り上げ規模もさることながら、飲用体験の場としても、とても重要だ。サントリーとしては、改めてお客さまの目が外食に向かう、飲食店が活性化するような取り組みを強化していく必要がある」との決意を示した。

1〜4月のサントリーのスピリッツ事業は約1260億円、前年同期比110%程度と、「ほぼ計画通り」に推移した。カテゴリー別には、ウイスキーが約6



「これまで育

昇華するモノづくり

30億円(115%)、RTD缶製品が約640億円(105%)、リキュール・スピリッツ(缶製品を除く)は約70億円(131%)。外食の回復と価格改定を背景に、順調に推移したといえる。その内訳について森本社長は、「国産プレミアム・ウイスキーはご要望にお応えできていないが、角

の奥行きを深まりを実感している。また、ジンの『翠』も缶の『翠ジンソーダ』と連動して良い動きを見せている。RTDは、酒場で愛されているブレンサワールの『タコハイ』が成長エンジンとなり、『こだわり酒場』シリーズ計も109%

ていただいたお客様、飲食店様、お得意先に、改めて感謝をし、これまでの知見を活かし、更なる品質向上と需要創造に励むキッカケの場と捉えて活動している」とし、製品の品質はもとより、工場への投資・改修で目指す知覚品質、そして業・家に跨る飲用時品質といったあらゆる品質にも一度、スポットライトを当て、モノづくり精神によって一段と昇華させていく考えを表明。「飲み方提案も色々と考えているが、ハイボールでもう一段、高

みを目指したい。ウイスキーに限らず、ジンなどのスピリッツでもモノづくりを起点とした新しい展開を考えている」との積極姿勢を示す一方で、ひっ迫が続く原酒については、「ここ10年の間、700億円を超える投資を続け、品質向上を柱に増産と出荷増を進めている。まだまだご要望に応えられていないが、今後も国産ウイスキーにこだわりながら、生産増・出荷増を基本計画に、少しでも需要に近づけていければ」との期待を示した。